

1. 空き家
耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険がある。

2. 古い(高い)ブロック塀
大きな地震では倒壊する危険があるためすぐ覆れる。近づかない。

3. 狭い道
近くの家が倒壊した時、道がふさがれて通れなくなる可能性がある。

4. 電線
切れた電線は停電時でも感電の危険がある。近づかない。

この地図は、名古屋市の市域を得て、名古屋都市計画基本図（平成27・28年度）を使用して作成したものです。承認番号：平成31年 第64号 JIS Z 8210。
 広域防災研究所・指定緊急避難場所（建物）：洪水（内水・氾濫、土石流、崖崩れ、地滑り、大規模な火事、指定緊急避難場所・指定避難所の指定について（ナゴヤ避難ガイド）名古屋、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示の0.0版

緑区

世帯：3,435 世帯
面積：1,323 km²

神の倉学区

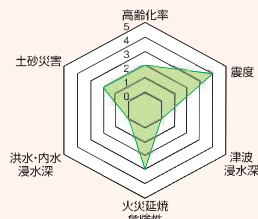
人口：9,145 人
(令和 2 年 12 月 1 日現在推計人口より)

神の倉学区では、南海トラフ巨大地震（あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震の場合）が発生した場合、学区のほとんどの地域で震度6弱、一部の地域では震度6強が想定されています。まずは、自分や家族の身を守るために、日頃から家具の転倒防止などの家庭の地震対策に努めましょう。また、液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、路上に泥水が流れ出し、通ることができなくなることがあります。これらを踏まえ、適切な避難先とそこまでの安全な経路を考えておきましょう。

当学区には一戸建ての住宅が密集している地域があり、一度火災が発生すると広い範囲に燃え広がる可能性が高くなっています。日頃から火災を起こさないための対策をするとともに、大規模な火災の発生時に避難できる広域避難場所を確認しておきましょう。

リスクリンダーチャート

	値	5段階
高齢化率	18.1%	2
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	500～1,000棟未満	3
洪水・内水浸水深	0m	0
土砂災害	警戒区域に人家10件未満	2



お住いの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況（密集状況や古いブロック塀など）及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災、減災意識を高めいざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用ください。

名古屋市 地区防災カルテ 検索

火災から命を守るために「今」できること

●住宅用火災警報器を設置する。

寝室、寝室がある階の階段、台所に設置が必要です。火災を早く発見し、火災を未然に防ぐだけでなく、隣近所への燃え移りを防ぐこともできます。また、設置後も定期的に、動作確認をしましょう。

●住宅用消火器等を設置する。

小型で軽く、取り扱いが簡単な住宅用の消火器や、片手で素早く使えるスプレー式で、天ぷら油などの火災に威力を発揮するエアゾール式簡易消火具を備えておくといざという時に役立ちます。

●感震ブレーカーを設置する。

地震の揺れを検知すると、自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止するために有効です。



基本的な避難行動



- ・避難先は固定されておらず、どこへでも避難可能です。（普段から避難先や危険箇所を確認しておきましょう。）
- ・地域で避難方法や安否確認など、ルールを決めている場合は留意しましょう。
- ・在宅避難の方も、指定避難所で避難者登録をすることで、食料などの支援が受けられます。

避難先へ安全に避難するための5つのポイント

- ①ガス・水道の元栓を締め、ブレーカーを切る！
- ②「一緒に逃げよう」近所への声かけ！
- ③高齢者や障害者などの避難誘導を！
- ④原則徒歩で！（渋滞抑止・高齢者や障害者などの避難を妨げない）
- ⑤木造住宅密集地、がけ地や川の近くは避けて！

非常持出品の準備

いざという時すぐに持ち出せるよう、非常持出品を準備しておきましょう。

【備蓄品の例】災害に備えて用意しておきたいもの

- 7日分程度用意しましょう
- 命をつなぐために用意しておきたいもの
- 保存がきく食品（自分が食べやすいもの）
 - 常備薬（持病の薬を含む）
 - 飲料水（ペットボトル）
 - 1人1日3リットルが目安です。また、水分の多い食品（ゼリーなど）と組み合わせることで量を減らすことができます。
- ◆防災用品
- 防水用のポリ容器・バケツ
 - ロープ
 - ハロー
 - のこぎり・工具など
- ◆寝具等
- 毛布
 - 寝袋
 - キャンプ用テント
- ◆燃料
- カセットコンロ（予備のボンベ含む）
 - 固形燃料
- ◆便利用品
- ドライシャンプー

非常持出品の例

- ◆防災用品
 - 懐中電筒
 - ヘルメット・防災ずきん
 - 軍手
 - マスク
- ◆食糧類
 - はし・スプーン
 - 紙皿・紙コップ
- ◆医療用品
 - 三角せん
 - 包帯・ガーゼ
 - ばんそうこう
 - 消毒薬
 - ウェットティッシュ（ティッシュ）
 - お薬手帳
 - 体温計
- ◆便利用品
 - 筆記用具
 - 新聞紙
 - 拭き用トイレ
 - ゴミ袋
 - キッチン用ラップ
 - 使い捨てカイロ
 - 雨具
 - 手持携帯電話充電器
- ◆その他（個人的に必要なもの）
 - 粉ミルク
 - 生理用品
 - 紙おむつ
 - 予備のメガネ・補聴器など

一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう！

◆まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、組、町内などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心に活動します。（安否確認、声かけなど）

◆災害の恐れがなくなった後も、避難生活は続きます。自宅（在宅避難）が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。

◆「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部（区役所）に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。



在宅避難のススメ

避難所は、不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を送る「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。

- ・在宅避難している高齢者や障害者などに声をかけよう！
- ・周囲に在宅避難を知らせよう！
- ・最寄りの避難所で避難者登録しよう！
- ・周囲で声かけし、食料や物資を分け合おう！